(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2005-224564
(P2005-224564A)
(43)公開日　平成17年8月25日(2005.8.25)

(51)Int.Cl.[7]	F I		テーマコード（参考）
A61F 5/451	A61F 5/451	Z	3B029
A61F 5/452	A61F 5/452		4C098
A61F 13/15	A41B 13/02	A	
A61F 13/49	A41B 13/02	R	
// A61F 5/44	A61F 5/44	T	

審査請求 未請求　請求項の数 9　書面　（全 11 頁）

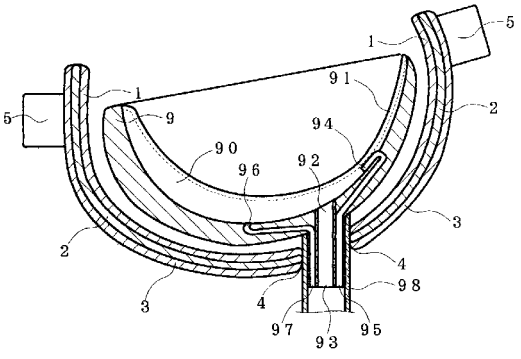
(21)出願番号　特願2004-71689(P2004-71689)
(22)出願日　平成16年2月13日(2004.2.13)

(71)出願人　396016401
奥野　昌彦
東京都品川区東五反田１丁目６番１１号
(72)発明者　奥野　昌彦
東京都品川区東五反田１丁目６番１１号

Fターム(参考)　3B029 BA01 BD11 BD19 BD21
4C098 AA09 CC32 CC33 CC37 CC39
CD10 CE13 DD22

(54)【発明の名称】アタッチメントカバー

(57)【要約】
【課題】　例えば特開２００２－０５８６９２号のような排泄物処理装置に付属する排泄物処理アタッチメントからの汚水漏れに対処して、衣類や寝具等を汚してしまうようなことが起こらないようにする。
【解決手段】　肛門部や陰部に装着してその排出パイプから排泄物をタンクなどへ送り出す排泄物処理アタッチメントをカバーし得る吸水体であって、該吸水体は前記排出パイプを通すための通孔を備えているものとした。
【選択図】　図１



【特許請求の範囲】
【請求項１】
肛門部および／または陰部に装着してその排出パイプから排泄物をタンクなどへ送り出す排泄物処理アタッチメントをカバーする吸水体であって、該吸水体は前記排出パイプを通すための通孔を備えている、アタッチメントカバー。
【請求項２】
肛門部および／または陰部に装着してその排出パイプから排泄物をタンクなどへ送り出す排泄物処理アタッチメントをカバーする吸水体であって、該吸水体は前記排出パイプを通すための通孔を開けるための開孔案内部を備えている、アタッチメントカバー。
【請求項３】
前記通孔を絞るための絞り手段が設けられている、請求項１または請求項２に記載のアタッチメントカバー。
【請求項４】
尻部にパンツとして着用し得るように、両脚を通すための脚孔が設けられている、請求項１または請求項２に記載のアタッチメントカバー。
【請求項５】
尻部に展開状態から着用し得るように、前見頃と後見頃とこの間の両側部に設けられた狭窄部とから成る紙おむつ様体とした、請求項１または請求項２に記載のアタッチメントカバー。
【請求項６】
前記排出パイプを通孔まで導入するための裂部と、この裂部を覆うカバーとが設けられている、請求項４または請求項５に記載のアタッチメントカバー。
【請求項７】
前記排出パイプを通孔まで導入するための裂部を開けるための切断案内部と、この切断案内部を覆うカバーとを備えている、請求項４または請求項５に記載のアタッチメントカバー。
【請求項８】
少なくとも片側の脚孔に付いて、該脚孔から胴周り部に掛けて脚を外すための裂部と、この裂部を覆うカバーとが設けられている、請求項４に記載のアタッチメントカバー。
【請求項９】
少なくとも片側の脚孔に付いて、該脚孔から胴周り部に掛けて脚を外すための裂部を開けるための切断案内部を備えている、請求項４に記載のアタッチメントカバー。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
この発明は、肛門部および／または陰部に装着してその排出パイプから排泄物をタンクなどへ送り出す排泄物処理アタッチメントをカバーするための、吸水体に関するものである。
【背景技術】
【０００２】
従来より自らトイレへ行けない病人や老齢者の排便のために、例えば特開２００２－０５８６９２号のような患者の股に装着して、その中に溜まった排泄物を排泄物吸引口から排泄物タンクへと吸引する排泄物処理装置がある。この装着具（アタッチメント）は内側面の中央部に形成され排泄物が溜まる凹部と、凹部の底面に形成された排泄物吸引口と、排泄物吸引口に接続された排出パイプとから成り、この排出パイプは外部のポンプに接続されている。また洗浄ノズルが設けられている。ポンプが作動すると装着具の凹部内部に排泄された排泄物の吸引が行なわれ、同時に洗浄ノズルから所定の圧力で洗浄水を押し出して洗浄ノズルから噴射させ、排泄物を排泄物吸引口に向かって押し流し、これを排出パイプから吸引除去するのである。この他にも例えばパンツとして着用し得るパンツタイプのものなどがある。

【０００３】
このような排泄物処理装置には、患者や介護者の負担を軽減することが出来ると言う利点があるため、更に開発が進んで多くの同種の商品が提供されるものと考えられる。
【特許文献１】特開２００２－０５８６９２号公報
【発明の開示】
【発明が解決しようとする課題】
【０００４】
このようなアタッチメントでは、その周囲から汚水が外部に漏れないようにするための防水手段が欠かせないものとなっている。またパンツタイプでは、両脚を通すための脚孔や胴周り部から汚水が外部に漏れないようにしなくてはならない。すなわち脚孔及び胴周り部にパッキングを施す必要がある。しかしながら、患者の挙動や介護時の体位変換などによってアタッチメントが容易にずれてしまうため、相当しっかりとした防水処置を施さなくてはならないのであるが、排出パイプによって外部装置と接続されていることなどもあって、アタッチメントにその時々の体勢で身体から浮く部位が生じたり、アタッチメントそのものが撓んで隙間を生ずるようなことが起こる。こうなるとどうしても汚水の雫などが漏れ出してしまうのである。
【０００５】
従ってこの発明では、このような汚水漏れにうまく対処し得るようにすることを課題とする。
【課題を解決するための手段】
【０００６】
この課題の解決に先立ち種々の実験と検討とを重ねた結果、完全なる防水機構を設けることは難しくコスト高になるなどの問題点が新たに見付かった。そしてパーフェクトな防水を目指すのではなく、万一汚水の雫などが漏れるようなことがあったとしても周りの肌や衣類や寝具等を汚さないようにすればよい、と言う知見を得ることが出来たのである。
【０００７】
上記課題は、肛門部および／または陰部に装着してその排出パイプから排泄物をタンクなどへ送り出す排泄物処理アタッチメントをカバーし得る吸水体であって、該吸水体は前記排出パイプを通すための通孔を備えている、アタッチメントカバーとすることにより達成される。
【０００８】
排泄物処理アタッチメントには排出パイプが設けられているため、これを通孔に通すことによって吸水体を排泄物処理アタッチメントに装着させることが出来る。通孔には排出パイプが通っているため吸水体と排泄物処理アタッチメントとは一体化されており、患者の挙動や介護時の体位変換などによってもずれるようなことがない。すなわち排泄物処理アタッチメントは吸水体によって覆われ続けることになり、万一汚水が漏れるようなことがあったとしても、吸水体がこれを吸収して外に漏らすことがない。
【０００９】
なお排出パイプ用の通孔は、初めから開孔されているものであっても、通孔を開けるための開孔案内部を備えているものであってもよい。前者は上述した通りであるが、後者に付いては吸水体を用いる時に開孔案内部を千切るなり開孔案内部に鋏を入れるなりして通孔を形成すれば、ここに排出パイプを通すことが出来るようになる。あるいはスリットのようなものであっても、そこに排出パイプを通すことによって結果的に排出パイプを通す孔部が形成されたような場合もそこを通孔と称するものである。よって通孔とは、通孔と成るべき部位をも含む概念である。
【００１０】
従って通孔の形状は丸孔に限定されることなく、星孔や線状孔や線状孔を６回対称に設けたものなど任意である。また更に吸水体の上を防水カバーで覆うなどしてもよいであろう。吸水体は洗濯により再度使用が可能な布製としたり、使い捨てが可能な紙製とすることが出来る。

【００１１】
また前記通孔に関して、通孔を絞るための絞り手段が設けられているものとすることが出来る。絞り手段としては通孔の近傍に取り付けるゴム紐やバンド等を上げ得る。絞り手段によって通孔を絞り上げ、排出パイプに確実に密着させるのである。上述した通孔と成るべき部位に設けることも好ましい。
【００１２】
またこの発明のアタッチメントカバーは、尻部にパンツとして着用し得るように、両脚を通すための脚孔が設けられているものとすることが出来る。また尻部に展開状態から着用し得るように、前見頃と後見頃とこの間の両側部に設けられた狭窄部とから成る紙おむつ様体とすることが出来る。
【００１３】
前者は言わばパンツであるから、両脚を通すための脚孔が設けられているのであるが、この２つの脚孔の間に排出パイプを通すための前記通孔が設けられている点に特徴を有する。先ず排泄物処理アタッチメントを肛門部や陰部に装着し、次いで排出パイプを通孔に通し、後はパンツのようにして着用する。従って尻部の全体が覆われることになる。後者は言わば展開式の紙おむつであるから、着用し終わると狭窄部が脚孔となるが、前者のようにわざわざ脚孔に両脚を通す作業が不要なため、より着用が便利である。排泄物処理アタッチメントを装着したら後見頃を尻部の下に敷き、前記通孔に排出パイプを通した後に前見頃を腹側に巻き上げて後見頃と前見頃とを左右共ファスニングテープで止めれば着用が完了する。従ってこれによっても尻部の全体が覆われることになる。なお吸水体の面積は、排泄物処理アタッチメントを覆い得るだけの範囲に設けられていても、あるいはパンツの全体に及ぶものであってもよい。また上記ファスニングテープ以外の固定手段を採用することが出来る。
【００１４】
また上述したパンツや紙おむつ様体に付いて、前記排出パイプを通孔まで導入するための裂部と、この裂部を覆うカバーとが設けられているものとすることが出来る。あるいは前記排出パイプを通孔まで導入するための裂部を開けるための切断案内部と、この切断案内部を覆うカバーと、を備えているものとすることが出来る。
【００１５】
通孔に排出パイプを通す際に、排出パイプが排泄物処理アタッチメントに接続されている状態では一旦排出パイプを外すなりしなくてはならない。しかしながらパンツの場合には前記裂部が通孔から胴周り部まで、また紙おむつ様体の場合には前記裂部が通孔から狭窄部等まで設けられていることによって、排出パイプを排泄物処理アタッチメントに接続したままで通孔に通すことが可能となるのである。こうして排出パイプを通孔に通した後は、前記裂部を塞ぐためにカバーを掛けるようにする。このカバーには粘着テープが適しているが、これ以外の閉塞手段も任意に利用可能である。
【００１６】
あるいは裂部を開けるための切断案内部が設けられているものでは、切断案内部を千切るなり切断案内部に鋏を入れるなりして裂部を形成すれば、ここに排出パイプを通すことが出来るようになる。また上述の通孔を開けるための開孔案内部とこの切断案内部とが設けられている場合では、開孔案内部と切断案内部とを繋げて設けることによって両者を一時に切り裂くことが出来る。なおこの場合でも前記切断案内部を塞ぐためにカバーを掛けるようにするとよい。
【００１７】
次に上述したパンツに関して、少なくとも片側の脚孔に付いて、該脚孔から胴周り部に掛けて脚を外すための裂部と、この裂部を覆うカバーとが設けられているものとすることが出来る。また少なくとも片側の脚孔に付いて、該脚孔から胴周り部に掛けて脚を外すための裂部を開けるための切断案内部を備えているものとすることが出来る。
【００１８】
前者の構成によればカバーを外すことで裂部が現われ脚孔から胴周り部に掛けて開放さ

れるため、容易に脚を抜くことが出来る。また後者の構成によれば切断案内部を千切るなり鋏を入れるなりして脚孔から胴周り部に掛けて切断することによって、容易に脚を抜くことが出来る。紙おむつ様体であれば、ファスニングテープを外せば前見頃を後見頃から外して狭窄部を開放することが出来るため、このような構成は不要であるが、パンツの場合では脚孔が閉じているために裂部なり切断案内部なりを設けると便利である。この構成によれば吸水体を脱ぐのが楽であり、また排泄物処理アタッチメントごと、吸水体で受けるような形で外せると言う利点がある。

【発明の効果】

【００１９】

この発明によれば、防水機構をどんなに厳重なものにしたとしても汚水の雫などは漏れるものであると言うことを前提にして、このような汚水漏れに対しては排泄物処理アタッチメントをカバーする吸水体で対処する。すなわち万一汚水の雫などが漏れるようなことがあったとしても、これを吸水体で吸収してしまうため、衣類や寝具等を汚してしまうようなことが起こらない。

【発明を実施するための最良の形態】

【００２０】

この発明のアタッチメントカバーは、例えば図１で表わしたような排泄物処理アタッチメントに用いられる。このものは肛門部及び陰部の全体を覆い得る大きさと形状の開口部９を有し、最奥の底部分にはパイプ９８を接続するための３つのパイプ９３，９５，９７が設けられている。この内、吸入ポンプに繋がる排出パイプ９５は排出口９２に接続され、洗浄水ポンプに繋がる洗浄水パイプ９５は洗浄口９４に接続され（洗浄水パイプ９５は温風の送風パイプを兼ねる）、また給水ポンプに繋がるビデパイプ９７は噴射口９６に接続されている。なお開口部９には周縁部で身体に粘着するシール部９１が設けられており、これより内側に排泄物を処理するための空間部９０が形成されている。この排泄物処理アタッチメント１は図示しないバンドで身体に装着される。なおこの発明は、これ以外の排泄物処理アタッチメントに対応させることが出来る。またこの発明はこのような排泄物処理アタッチメントを含むものではなく、アタッチメントカバーにのみ係るものである。

【００２１】

第１実施形態

この実施形態のアタッチメントカバーは、例示の排泄物処理アタッチメントの開口部９よりも幾分大き目なサイズを有してその全体を覆うものであり、中央部に備えた通孔４に前記パイプ９８を通すことにより、排泄物処理アタッチメントに対してずれることがなくなる。なお身体に対しては接着テープ５を以て接着される（図２，図８）。

【００２２】

第２実施形態

この実施形態のアタッチメントカバーは、尻部に履いて装着する紙おむつ様のものであり、２つの脚孔７１，７１の間に前記パイプ９８を通すための通孔７０が設けられている（図１０，図１１）。

【００２３】

第３実施形態

この実施形態のアタッチメントカバーは、尻部に展開状態から着用し得るように、前見頃８と後見頃８０とこの間の両側部に設けられた狭窄部８３とから成る紙おむつ様のものであり、左右の狭窄部８３，８３の間に前記パイプ９８を通すための通孔８１が設けられている（図１２）。

【実施例】

【００２４】

第１実施例

図１及び図２はこの実施形態のアタッチメントカバーを表す。排泄物処理アタッチメントの周囲を３センチメートル程の幅で覆うものであり、トップシート１とバックシート３との間に吸収体２を挟み込んみ、その縁部１０，３０で接着して成る。トップシート１は

汚水を通過させると共に戻りを阻止する役目を担い、吸収体２は汚水を吸収する役目を担い、バックシート３は汚水の通過を阻止する役目を担っている。またこのアタッチメントカバーの略中央部分には前記パイプ９８を通すための通孔４が設けられており、周囲の４ヵ所に接着テープ５が取り付けられている（図２）。

【００２５】

通孔４にパイプ９８を通すと、このアタッチメントカバーは排泄物処理アタッチメントからずれることがなくなり、その周囲は３センチメートル程の幅で覆われる。従って汚水が排泄物処理アタッチメントから漏れ出すようなことがあっても、これをこのアタッチメントカバーで受けることが出来るのである（図１）。なおこのアタッチメントカバーは、接着テープ５によって身体に粘着され止められる。

【００２６】

第２実施例

上述した第１実施例の通孔４はアタッチメントカバーに最初から開孔されているものであるが、この実施例の通孔４０は後から手で開孔し得るように設けられているものである。すなわち円形の切り裂き案内部４１とこの直径の位置を通る切り裂き案内部４２とを設けて成る。元々この位置には通孔４０が開孔されており、切り裂き案内部４１，４２はトップシート１とバックシート３との接着部である（図３）。そこで切り裂き案内部４２を両手の指で押し開くようにして破ると通孔４０が形成される。切り裂き案内部４１，４２は切り裂き易く、切り裂きが他の部位に及ぶようなことがないように成っている。

【００２７】

第３実施例

この実施例に備わる通孔４３では、トップシート１とバックシート３とが通孔４３内で接着されており、更にこの部位に接着材４４によって剥離テープ４５が取り付けられている（図４）。この剥離テープ４５を引くと、この部位のトップシート１とバックシート３とが破れて通孔４３が形成されるが、切り裂きが他の部位に及ぶようなことがないように成っている。

【００２８】

第４実施例

この実施例に備わる通孔４６は基本的には円孔なのであるが、円部４７とその周囲に等間隔に設けられた切り込み部４８とから成る（図５）。前記パイプ９８を挿入する際にはパイプ９８で切り込み部４８を押し開くようにすると、その部位がパイプ９８に添った状態と成る。

【００２９】

第５実施例

図６で表すように、この実施例に備わる通孔４９は縦長のスリット状のものである。このような形状の４９でも前記パイプ９８に対応することが出来る。

【００３０】

第６実施例

この実施例に備わる通孔４００は後から手で開孔し得るように設けられているものであり、通孔４００の直径の位置を通る縦長のスリット状のものが３回対称に開孔されて切り裂き案内部４０１が形成されている（図７）。この切り裂き案内部４０１はパイプ９８で押し開くようにして開孔するものである。

【００３１】

第７実施例

この実施例のアタッチメントカバーは、上述した第１実施例のアタッチメントカバーのトップシート１の上を合成樹脂シート製の防水カバー６で覆って成るものである（図８）。防水カバー６はトップシート１の外周よりも幾分大き目に作られている。また通孔４に対応させて、通孔４よりも小さ目の通孔６０を開孔して成る。

【００３２】

第８実施例

図９で表わすように、この実施例に備わる通孔４０２にはファスニングテープ５０が取り付けられている。このファスニングテープ５０はその端部の内側面に粘着剤が塗布されており、その上に剥離紙が貼着されている。そこで通孔４０２にパイプ９８を通した後、通孔４０２を絞るようにし、剥離紙を剥離したファスニングテープ５０でこの部位をきつく止めるようにする。これによってこの部位の防水性を高めることが出来る。

【００３３】

第９実施例

図１０はこの実施形態のアタッチメントカバーを表す。排泄物処理アタッチメントを覆うのみならず尻部の全体を覆い得るように、尻部に着用するタイプのものである。これは言わば紙おむつであるから汚水の漏れの問題に対してより良好な結果を得ることが出来る。

【００３４】

この実施例のアタッチメントカバーである紙おむつ７には、２つの脚孔７１，７１の間に前記パイプ９８を通すための通孔７０が設けられている。また各々の脚孔７１には漏れ止めのギャザー７２が形成されている。同様にウエスト孔７３にもギャザー７４が形成されている。更に左右の脚孔７１，７１の各々に付いて脚孔７１からウエスト孔７３へ抜ける切り裂き案内部７５が形成されている。

【００３５】

この紙おむつ７に特徴的な他の点は前記切り裂き案内部７５にある。すなわちこの紙おむつ７を脱ぐ際には、前記切り裂き案内部７５から裂くようにして展開する。これにより紙おむつ７を容易に外すことが出来るように成ると共に、排泄物処理アタッチメントごと取り去ることが出来るように成るのである。従って、外した排泄物処理アタッチメントから汚水が垂れるような心配がない。

【００３６】

第１０実施例

図１１はこの実施形態のアタッチメントカバーを表わす。この実施形態のアタッチメントカバーが第９実施例のものと異なる第１の点は、前記切り裂き案内部７５の代わりに切り裂き部７６を設けて、その上に接着可能な接着テープ５１を取り付けた点にある。接着テープ５１の裏面には粘着剤５２が塗布されており、接着・剥離が何度でも可能である。また第２の異なる点は、別の切り裂き部７７を通孔７０からウエスト孔７３に掛けて設けて、その上に接着可能な接着テープ５３を取り付けた点にある。この接着テープ５３の裏面にも粘着剤が塗布されている。なお前記切り裂き部７７の代わりに切り裂き案内部を、また前記通孔７０の代わりに通孔のための切り裂き案内部を設けるようにすることが出来る。またこれ等の切り裂き案内部を繋げて設けることも可能である。また前記切り裂き部７６の代わりに切り裂き案内部を設けることも出来る。

【００３７】

さてこの紙おむつ７を着用するには左右の切り裂き部７６，７６の接着テープ５１，５１を剥離すると共に、中央部の切り裂き部７７の接着テープ５３を剥離して全体を展開する。すると中央部の切り裂き部７７に前記パイプ９８を通すことが容易に行なえ、また左右の脚孔７１，７１に脚を通すことが容易に行なえるのである。この後は再び接着テープ５３で切り裂き部７７を覆ってパイプ９８にしっかりとこの紙おむつ７を固定し、接着テープ５１，５１で切り裂き部７６，７６を覆って着用を完了させるようにする。

【００３８】

なおこの紙おむつ７を外す際には、前記接着テープ５１，５１，５３を剥がすようにすればよい。これによって紙おむつ７が容易に外れるから、患者の負担が少なくなる。しかも排泄物処理アタッチメントごと取り去ることが出来るため、外した排泄物処理アタッチメントから汚水が垂れるような問題を生じない。

【００３９】

第１１実施例

図１２はこの実施形態のアタッチメントカバーを表わす。排泄物処理アタッチメントを

覆うのみならず尻部の全体を覆い得るように、尻部に着用するタイプのものであるが、特に尻部に展開状態から着用し得る紙おむつ様のものと言うことになる。

【００４０】

このアタッチメントカバーは、前見頃８と後見頃８０とこの間の両側部に設けられた狭窄部８３と、この左右の狭窄部８３，８３間を連絡する切り裂き部８５と、この切り裂き部８５の上に取り付けられた接着テープ５５と、周囲の４ヵ所に取り付けたファスニングテープ５４とから成るものである。前記狭窄部８３，８３には弾力性伸縮材８４が取り付けられており、着用時に脚周りにしっかりと密着するようにされている。また切り裂き部８５の中央部分は前記パイプ９８が通される所であり、ここは通孔８１であると言うことに成るが、この通孔８１の両側の切り裂き部８５，８５の上に接着可能な接着テープ５５が取り付けられている。接着テープ５５はこのように左右に設けられているのであり、これにより前見頃８と後見頃８０とが繋げられている。なお符号８２は排泄物処理アタッチメントから漏れ出た汚水を吸収するための吸収体を指す。

【００４１】

この紙おむつを着用するには、先ず片側の接着テープ５５を剥離して切り裂き部８５を露出させ、ここから前記パイプ９８を切り裂き部８５の中央部まで通してからこの切り裂き部８５の上を接着テープ５５で覆うようにする。これにより紙おむつをパイプ９８にしっかりと固定させることが出来るのであり切り裂き部８５のこの部位が通孔８１と成る。なおこの際に後見頃８０を尻部に敷いておくようにする。次に前見頃８を腹側に被せるようにし、左右のファスニングテープ５４で前見頃８と後見頃８０とを接着固定して紙おむつの体裁を成すように着用する。

【００４２】

この紙おむつで特徴的な点は、着用が終わると狭窄部８３は実質的に上述した第１０実施例の脚孔７１と同様のものと成る点である。そしてこれと同じことがパイプ９８を填め終えた通孔８１に付いても言える。なお一側の切り裂き部８５はこれを設けず接着テープ５５を不要として、この部位の前見頃８と後見頃８０とを地続き状態に構成することも可能である。

【００４３】

この紙おむつを外すには、前記４箇所のファスニングテープ５４を剥して前見頃８と後見頃８０とを展開し、排泄物処理アタッチメントごと外すようにする。そしてパイプ９８を切り裂き部８５を利用して外すようにするのである。従って着脱時に患者の負担が少なくなり、外した排泄物処理アタッチメントから汚水が垂れるようなことがなくなる。

【産業上の利用可能性】

【００４４】

この発明のアタッチメントカバーは、現在存在する排泄物処理アタッチメントのみならず、将来登場する前記パイプ９８またはこれに類するパイプが取り付けられているような排泄物処理アタッチメントには全て適用することが出来るものである。またアタッチメントカバーの構造や素材も、従来からある紙おむつ等の技術を踏襲するのみならず、将来開発される紙おむつ等の技術を利用することが出来る。何れにせよ前記パイプ９８またはこれに類するパイプを通すための通孔あるいは通孔と成る部位が設けられているものであれば、この発明の権利範囲内のものである。

【図面の簡単な説明】

【００４５】

【図１】　第１実施例の使用状態を表す断面図である。

【図２】　同実施例の平面図である。

【図３】　第２実施例の部分平面図である。

【図４】　第３実施例の説明図である。

【図５】　第４実施例の部分平面図である。

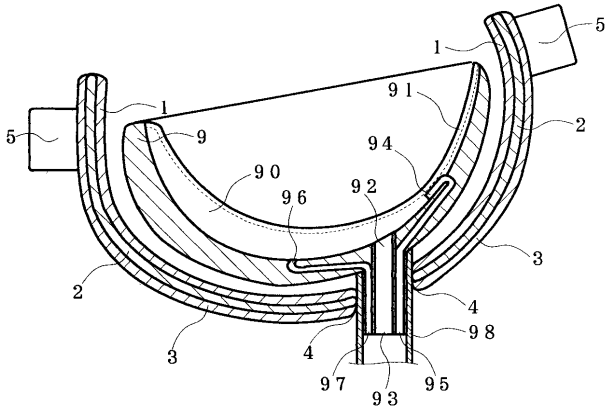
【図６】　第５実施例の部分平面図である。

【図７】　第６実施例の部分平面図である。

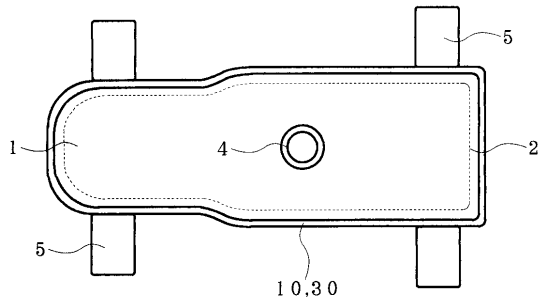
【図８】　第７実施例の平面図である。
【図９】　第８実施例の斜視図である。
【図１０】　第９実施例の斜視図である。
【図１１】　第１０実施例の斜視図である。
【図１２】　第１１実施例の平面図である。
【符号の説明】
【００４６】
１　　トップシート
１０　縁部
２　　吸収体
３　　バックシート
３０　縁部
４　　通孔
４０　通孔
４１　切り裂き案内部
４２　切り裂き案内部
４３　通孔
４４　接着材
４５　剥離テープ
４６　通孔
４７　円部
４８　切り込み部
４９　通孔
４００通孔
４０１切り裂き案内部
４０２通孔
５　　接着テープ
５０　ファスニングテープ
５１　接着テープ
５２　粘着剤
５３　接着テープ
５４　ファスニングテープ
５５　接着テープ
６　　防水カバー
６０　通孔
７　　紙おむつ
７０　通孔
７１　脚孔
７２　ギャザー
７３　ウエスト孔
７４　ギャザー
７５　切り裂き案内部
７６　切り裂き部
７７　切り裂き部
８　　前身頃
８０　後身頃
８１　通孔
８２　吸収体
８３　狭窄部
８４　弾力性伸縮材

８５　切り裂き部

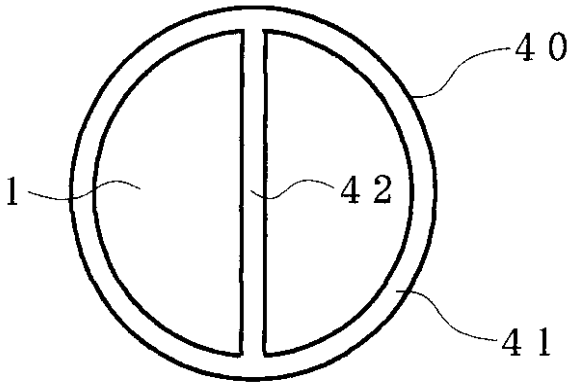
【図１】



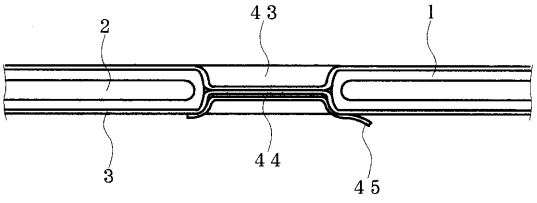
【図２】



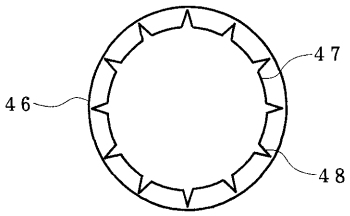
【図３】



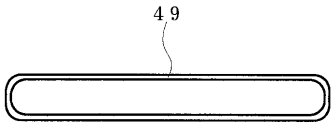
【図４】



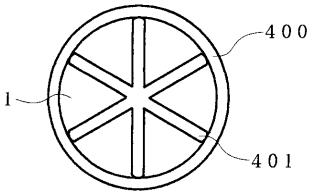
【図５】



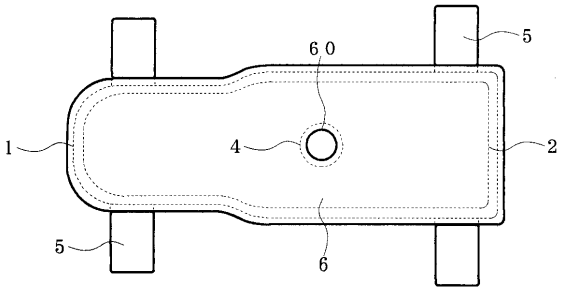
【図６】



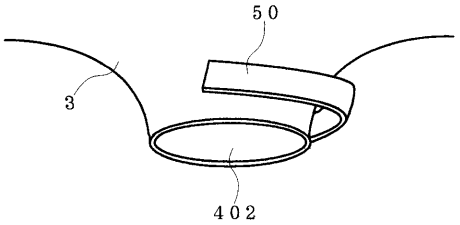
【図７】



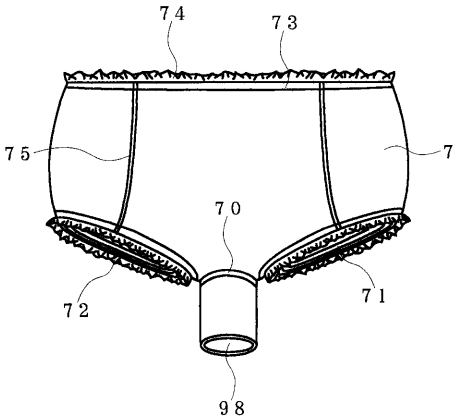
【図８】



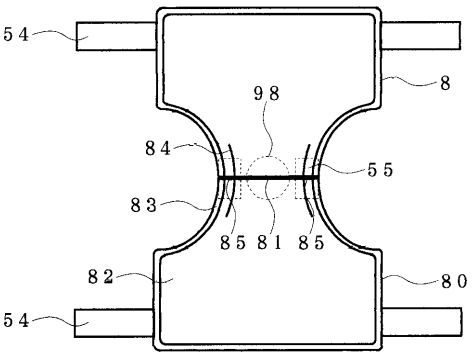
【図９】



【図１０】



【図１２】



【図１１】

